

第5回 川越町地域公共交通会議

日 時：令和6年2月27日（火）午後1時30分から

場 所：川越町役場4階 全員協議会室 (敬称略)

出席者：岩崎恭典（会長）、加藤志保子（副会長）、山下裕矢、古市大也、高重陽嗣、
小瀬古恵則、吉川篤史、西口尚、水谷俊治、福井貞彦、鈴木博行、樋口慎也、
村下真弥、木村光宏
事務局（企画情報課：伊藤、寺本、福祉課：水谷、山下）
地域問題研究所（藤）

議 事

1. あいさつ
2. 議事
 - 1) デマンドタクシーの実証実験の結果について（資料1）
 - 2) 川越町のりあいタクシーの利用者・意向調査の結果について
(資料2・参考資料1・参考資料2)
 - 3) 今後の川越町の地域公共交通について（資料3）
3. その他

《議事要旨》

開 会

事務局（寺本）

- ・ 只今より第5回川越町地域公共交通会議を始める。
- ・ 本日の会議は、配布している事項書に基づいて進めさせていただく。
- ・ 配布資料は事項書の下段に記載があるように、事前に送付させていただいた資料のほか事項書、出席者名簿の7点となる。
- ・ 本日の交通会議は、1) デマンドタクシーの実証実験の結果について、2) 川越町のりあいタクシーの利用者・意向調査の結果について、3) 今後の川越町の地域公共交通についての協議を行う。
- ・ 本日の会議の成立について、川越町地域公共交通会議設置要綱第6条第3項の規定により、委員の過半数以上の出席が必要となるが、委員総数14名のうち、代理出席を含め14名全員が出席しているため、本会議が成立することを報告する。

1. あいさつ

岩崎会長

- ・ 本日の会議では特に決めなければならない事項はないが、デマンドタクシーの実証実験の結果を説明していただきながら、皆様のご意見を聞いて、今後、来年の地域公共交通についての方針を作っていくことになる。
- ・ 四日市市では自主運行バスを実施してから20年を迎え、先日、この事業に当初から関わ

っている、名古屋大学の加藤先生の講演があった。

- ・加藤先生の話の中で、アンケートで、よく「そのうち使う」などの回答があるが、免許の返納はしないし、実際は乗らない。免許返納するまでは自家用車を使い、返納後は車に乗れず、車いすに乗ることになる。そのため、「そのうち乗る」という人を対象にするのではなく、若い人が乗ってくれるように考えていく必要がある。若い人はスターバックスのように、人がいる所に集まってくる傾向があり、若い人が乗って楽しい印象をもってもらえると良い。乗って楽しい公共交通を、若い人をターゲットに取り組んでいくべきであるとの講演内容であった。
- ・ただ、目の前の高齢者の移動手段を考える必要もあって、並行して、楽しい地域公共を考えていく必要があるのでは。
- ・今後、川越町がどうしていくのかは来年度の検討になるが、今回の実証実験の結果を踏まえ、川越町の特質にあった公共交通の仕組みを皆さんと考えていきたい。

2. 議事

1) デマンドタクシーの実証実験の結果について

岩崎会長

- ・「デマンドタクシーの実証実験の結果について」事務局から説明をお願いしたい。

事務局（寺本）

- ・最初に本実証実験の実施にあたってご協力いただいた関係者の皆様へ感謝を申し上げます。
- ・では、資料1 川越町のりあいタクシー実証実験の結果についての説明させていただく。
- ・実証実験の実施期間は、令和5年10月1日（日）から令和5年12月31日（日）で、運行時間は、午前9時から午後4時30分。実際の運行日数としては、73日間で、うち未稼働日数が、22日であった。
- ・利用件数は、113件で、乗合件数が2件、利用者数は、128人であった。
- ・実証実験の概算事業費としては、「のりあいタクシー運行経費」が、5,300千円で、「利用者調査経費」が、1,100千円となり、三重県補助金を3,000千円予定しており、本事業の川越町負担としては、3,400千円となる。
- ・利用状況の詳細は、次ページのとおりで、通院での利用が多かったこともあり、木曜日の利用が少ない。
- ・乗降場所の状況については、乗車が1番多かった場所が、「総合センター」で、2番目が、「南福崎公民館」、降車の1番は、「近鉄伊勢朝日駅」、2番目が、「総合センター」との結果であった。
- ・実証実験の結果の概要は以上。

岩崎会長

- ・事務局からの説明に対して何か質問・意見はありますか？
- ・のりあいタクシーということであるため、乗合が基本であったと思うが、実際は2件と少なかった。たまたま予約が重なったという説明であったが。

事務局（寺本）

- ・町内での利用であり、走行距離も短いため、乗り合う機会が少なかったと思われる。

2) 川越町のりあいタクシーの利用者・意向調査の結果について

岩崎会長

- ・「川越町のりあいタクシーの利用者・意向調査の結果について」事務局から説明をお願いしたい。

事務局（寺本）

- ・のりあいタクシーの利用者が想定より少なかったこともあり、利用者アンケートとは別に、町内在住の65歳以上の方を対象に利用意向調査を実施した。
- ・時間の都合上、2つのアンケート結果の主な事項をまとめた「資料2の利用者調査・利用意向調査（総括）」に沿って説明させていただく。

<利用者調査の結果>

- ・本アンケートについては、利用者の意向により、同一人物が、複数回答しているケースがあるので、ご留意いただきたい。調査の概要は、「のりあいタクシーを利用者」が対象で、対象者数：128人、有効回収数：81票、有効回収率：63.3%であった。行政が行うアンケートでは、通常、30～40%程度の回収率であることから、この分野の関心は高い。
- ・利用者の状況は、70歳代、80歳代の女性の利用が多く、運転免許証を持っていない人と返納した人を合わせて34.6%を占める。
- ・日常的な移動手段は、徒歩、家族の送迎、タクシー、ふれあいバスが多く、タクシーを日常的に利用している人が55.6%を占める。
- ・のりあいタクシーの利用状況は、午前9時台、午後1時台の利用者が多く、乗車した場所は、①総合センター、②南福崎公民館、③当新田フジタ理容店前が多く、降車した場所は、①近鉄伊勢朝日駅、②総合センター、③川越あさひ眼科となっている。
- ・利用目的は、通院が50.6%を占める。その他、習い事（24.7%）、買い物（13.6%）が多い。
- ・のりあいタクシーの評価として、満足度が高いのは「目的地までの所要時間」、不満度が高いのは「料金」と「利用時間」であった。今後の利用意向としては、「利用したい（56.8%）」と「場合によって利用したい（39.5%）」を合わせて96.3%を占める。
- ・希望する料金については、今回と同様の300円が最も多く、平均で323円。
- ・希望する移動範囲は、町外への移動が77.0%を占める。特にイオンモール四日市北への要望が多い。
- ・その他に、通院での利用が多いこともあり、帰りの時間がわからないため、前日まで予約ではなく、当日予約への要望が多い。
- ・今後の地域公共交通への意向として、タクシーの初乗り料金の補助（タクシーチケット配付）について、「利用したい（56.8%）」と「場合によって利用したい（34.6%）」を合

わせて91.4%を占める。

- ・ふれあいバスより、のりあいタクシーの方が利用しやすいと考えている人が多く、今後ものりあいタクシーの継続運行を希望する人が75.3%を占める。

<利用意向調査の結果>

- ・調査の概要は、「町内在住の65歳以上の方」が対象で、配布数：120票、有効回収数：98票、有効回収率：81.7%であった。
- ・回答者の状況としては、70歳代の回答が多くを占める。
- ・運転免許証を持っている人が85.7%を占めており、日常的な移動手段は、自家用車が81.6%、徒歩45.9%、自転車(28.6%)であり、ふれあいバスは5.1%、タクシー4.1%となっている。
- ・回答者のうち、のりあいタクシーを利用したのは2名のみで、利用しない理由は、「自家用車や家族の運転で十分なため」が75.3%で最も多い。のりあいタクシーについては、「利用方法がわからない」、「予約が面倒」、「利用時間や行き先が限定されるため」などの理由が多い。
- ・今後の地域公共交通への意向としては、「ふれあいバスの継続運行(39.8%)」、「有料で便数も路線も多いコミュニティバスの運行(35.7%)」、「のりあいタクシーの継続運行(24.5%)」、「タクシーチケットの配付(24.5%)」の要望が多い。
- ・その他、「ふれあいバスの車両の小型化」、「のりあいタクシーの当日予約や町外への移動」、「地域公共交通のサービスによる費用対効果の検証」などの意見がある。

<まとめ>

- ・実証実験の結果、2つのアンケート調査の結果、運行費用など総合的にみると、のりあいタクシーの実装化は現時点では難しいと考えている。
- ・まずは令和6年度に、ふれあいバスの車両の小型化、ルートやダイヤの見直しなどを行い、その結果も含めて今後の方針を検討していきたいと考えている。

岩崎会長

- ・2種類のアンケート調査を実施し、資料2の2ページの下の枠囲いは2つのアンケートのまとめということで、6項目のうち、上から4つ目までは今回ののりあいタクシーではできない項目で、これを実現しようとする結果的に通常のタクシー利用が良いかなというような結果になっている。また、利用意向調査は65歳以上の限られた人を対象にした結果ではあるが。
- ・ご質問、ご意見等はいかがか。

山下委員

- ・のりあいタクシーを利用した人は、ふれあいバスよりも、のりあいタクシーが利用しやすいとの回答。のりあいタクシーを利用していない人は、予約が面倒、利用方法がわからないなどから、利用を躊躇した人が多い。
- ・意見の中で、地域公共交通サービスの費用対効果の検証とある。今回、運行経費として3か月間で530万円かかり、町の負担分が340万円であったが、アンケート調査の費用は

別として、補助金もいつまで対象となるかもわからない状況で、利用者 128 人に対して、タクシー利用 1 回あたり 1,000 円補助しても 1 年間で 50 万円程度の支出で済む。大きく PR して利用者が 3 倍、4 倍になるかもしれないが、現状、町が負担した 340 万円まではいかないと思う。

- ・今後どのような形態かはわからないが、のりあいタクシーを検討するのであれば、費用対効果を検証しながら進めることが重要になると思う。
- ・私の地元の停留所であるフジタ理容店で話を聞いたが、行きは予約できて良いが、病院の場合、帰りの時間がわからないので、結局、帰りは歩いて、ふれあいバスを利用したと聞いた。

岩崎会長

- ・のりあいタクシーの実証実験では、周知の問題など、課題があったと思う。実働日数も少なく、利用者調査については、限られたものになっているかもしれないが、実装化にあたってはもっと色々と考えて行く必要がある。

水谷委員

- ・直接のりあいタクシーの利用者からの声は聞いていないが、利用した、との声は聞いている。また、私も意向調査に回答したが、自分が自家用車を利用するので、どのような時にのりあいタクシーを利用するのかイメージが沸かなかった。

福井委員

- ・アンケートの結果を見ると、行き帰りに利用できないことがネックである。特に、病院通いの利用が多いこともあり、帰りが使えないとなると、価値が半減すると感じるどころ。

加藤副会長

- ・私も当日予約ができないのがネックだと思う。

岩崎会長

- ・課題をあぶり出すための実証実験であったが、当日予約も含め、予約がしにくいことが課題となっている。年配の方は、予約自体が面倒ということもあるかと。
- ・今回の課題を克服して、のりあいタクシーを導入するのか、もしくは、タクシーチケットが良いのか。一方では、タクシードライバーが不足していくことが予想される中、ふれあいバスのことをもっと考えていくのか、など色々な選択肢がある。

小瀬古委員

- ・この実証実験の期間中、ふれあいバスの利用状況はどうだったのか。のりあいタクシーに 128 人が利用したが、その間、ふれあいバスの利用者が変化したのか。ふれあいバスからの移行だったのか、それとも、ふれあいバスの利用者とは異なる新たな客がのりあいタクシーに乗車したのか。

事務局（福祉課：山下）

- ・ふれあいバスの年末の利用者は、前年度よりも少ない傾向にあったが、のりあいタクシーが要因かまでは把握をしていない。原因まで掘めていないが、利用者数は、前年度は、700 人程度であったが、今年度は、600 人程度になった。

事務局（寺本）

- ・これまではふれあいバスを使っていたが、のりあいタクシーが始まって利用するようになり、300円の自己負担が大きいという意見があることから、ふれあいバスから、のりあいタクシーに移行した方は少なからずいたと思われる。

鈴木委員

- ・利用者数が延べ128人であったが、中にはヘビーユーザーがいるなど、実人数は掴んでいるのか。

事務局（寺本）

- ・本人確認をしていないため、実人数はわからないが、運行事業者からは、5～6人の方が多く利用したいと聞いている。

事務局（伊藤）

- ・利用者から電話でお礼をいただき、その方は、天神公民館から便利に使っています、とのことであったが、雨の日は停留所まで行くのが大変であるため、出にくくなるので、ドアtoドアを希望していると感じたところ。

岩崎会長

- ・のりあいタクシーを本格運転にしていくには、利用方法の例示が必要。タクシーとふれあいバスの間層がターゲットになるので、どうやって上手く使えるか、予約の仕方のマニュアルなど利用しやすい仕組みづくりが必要。ふれあいバスや通常のタクシーと違うことをもっとアピールしていく必要もある。
- ・また、利用者は伊勢朝日駅や川越富洲原駅の駅利用が多いがこの方々は町外へ出て行っているのか。目的は、通院なのか。

福井委員

- ・通院や買い物で町外へ利用した人が多いと思う。

事務局（寺本）

- ・伊勢朝日駅での下車は、13時までが多いので、アンケート結果からも通院が多いと考えられる。川越富洲原駅の場合は、自宅付近とも考えられるが、伊勢朝日駅は、朝日町なので、歩いて自宅まで帰ることは考えにくく、駅から電車で、町外へ行くケースだと考えられる。

岩崎会長

- ・イオンモール四日市北まで移動できるともっと利用者が増えると思われるか。

福井委員

- ・利用者は増えると思う。色々と条件があると思うが、町外まで移動できるとなると利用者は増えると思う。

小瀬古委員

- ・参考資料1川越町のりあいタクシーの利用者調査の10～11ページに、利用状況の一覧があるが、ふれあいバスのバス停がある所も停留所になっていて、人が集まりやすい場所にバス停が設置されている、との見方もできる。反対に、ふれあいバスのバス停から遠い方は、困っているかもしれない、と感じた。

岩崎会長

- ・ふれあいバスのバス停以外の停留所を洗い出して比較すれば傾向がわかるかもしれない。

事務局（寺本）

- ・のりあいタクシーの停留所は各区長と相談して、ふれあいバスのバス停をベースに、150mピッチで設置した。例えば、キリン公園、フジタ理容店前、亀崎新田接骨院などで、ふれあいバスのバス停とは違う場所でも利用があった。

岩崎会長

- ・のりあいタクシーの停留所とふれあいバスのバス停の利用状況の比較、分析が可能かもしれない。他にはいかがか。

3) 今後の川越町の地域公共交通について

岩崎会長

- ・今回の実証実験を踏まえ、今後の予定、検討内容などについて説明をお願いしたい。

事務局（寺本）

- ・では、「資料3 地域公共交通関連事業スケジュール」について説明させていただく。
- ・これまで「のりあいタクシーの実証実験」と「ふれあいバスの改善」の二本立てで事業を進めてきた。
- ・令和6年度はふれあいバスの小型化を予定どおり10月から実施する。マイクロバスからハイエースなどの車両に小型化し、まちなかにも入っていけるようなルートやダイヤに改善する。10月の1か月間は現行のふれあいバスとの並行稼働を考えている。
- ・「新運行手段」については、今回の実証実験の結果からも、今すぐの実装は難しい。今回の実証実験の結果、ふれあいバスの小型化の結果を含め、どのようなニーズがあり、どれくらいの費用がかかるのかなど、課題の整理を行うとともに、効果を検証しながら、検討をしていきたいと考えている。

岩崎会長

- ・令和6年度は、このようなスケジュールで進めるということであるが、ご意見をいただきたい。

山下委員

- ・ふれあいバスと乗り合いバンを10月に並行して運行するということであるが、今後の方針を検討するために、今後もこのような場をもつのか。

事務局（伊藤）

- ・令和4年8月に交通会議を設置し、本日までに5回、地域公共交通会議を開催し、委員の方々から貴重なご意見、ご提案をいただいた。今回で終わりではなく、来年度以降も皆様にお集まりをいただいて、ふれあいバスの小型化の結果等も報告をさせていただきたいと考えている。
- ・当町の地域公共交通のあり方を検討する中で、アンケート結果にあったタクシーチケットを含め、その他にも色々と検討事項もあり、新たな事業や町の地域公共交通の方針を決める際には、この交通会議を開催し、協議ができればと考えている。

岩崎会長

- ・皆さんよろしいでしょうか。他にはいかがか。
- ・ふれあいバスの小型化によるルートの見直しについては、以前検討したが、どのように進めていくのか。

事務局（伊藤）

- ・小型化を10月から予定をしているが、その場合の運行ルート、停留所は、ふれあいバスのルート、停留所とは変わってくる。その内容は、三重大学との連携協定に基づく、公共交通検証事業ということで、検討を進め、最短ルートの提案をいただいているので、その提案に沿ったルートで運行することを考えている。

岩崎会長

- ・来年度はふれあいバスの改善などを中心にこの場でも議論ができればと思う。
- ・以上で本日議論すべき議事は終了するが、その他としていかがか。

3. その他

鈴木委員

- ・ライドシェアについては、国交省として、安全性の観点からも、なんでも認めることは望ましくないと考えている。4月からは、タクシー事業者の管理のもとで、全ての地域ではなく、タクシーが足りない地域を国で選定して、地域と時間を限定して、認めていく方針。また、6月にはタクシー事業者の管理とは異なるやり方も検討しているが、今のところ、細かい情報は入ってきていない状況。県内でもいくつか検討している、と聞いている。

山下委員

- ・今日のテレビでも報道されていて、聞いてみたいと思っていた。

岩崎会長

- ・安全性からも運行管理は絶対必要で、諸外国のような運行はないだろうということであるが。新たな運行手段の検討については、このような場で色々と今後も協議できればと思う。

事務局（伊藤）

- ・繰り返しになるが、交通会議に出席いただき、感謝を申し上げます。これまで、5回の会議を行ってきたが、様々なご意見、円滑な進行に協力をいただいた。
- ・新たな交通手段の検討に向けて、令和5年度にのりあいタクシーの実証実験を行い、今回、その結果報告をさせていただきました。実証実験の結果からも、今のところ、のりあいタクシーの導入予定はないが、令和6年度には、現行のふれあいバスを小型化し、高齢者の方の居住エリアに近い場所を運行し、便数も増やして、利便性を高めたい。
- ・この交通会議については、当町の公共交通のあり方を検討する場として、存続させたい。開催頻度については年1回程度で、内容については、ふれあいバスの運行状況の報告となるが、引き続きよろしくお願いいしたい。

岩崎会長

- ・次年度はふれあいバスをどう利用するか、どう活用するかを考えていきたい。他の自治体でも、財政的な支援を受けるとなると、地域公共交通計画の策定が必要で、法定協議会に移行しなければならない。
- ・川越町では無料で運行するふれあいバスのため、当面は、町から報告を受けて、皆さんから意見を出していただく、懇談会のような形式で、4月以降もお願いしたい、ということであるが、いかがか、よろしいでしょうか。
- ・本日の議事は以上となるので、事務局に進行をお返ししたい。

事務局（寺本）

- ・委員の皆様、貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後は、年1回程度の開催を予定しているので、よろしくお願ひしたい。
- ・第5回川越町地域公共交通会議を終了したい。

以上